

番号	ご意見、ご感想	
	基調講演・文化団体による事業紹介について	その他
1	<p>長年ホールが出来ず待っている者です。 是非大ホール・小ホールのクオリティーの高いホール希望です。 市民会館が今まで活躍した形がずっとストップしてしまっているこの現状・・・ 今日の先生のサードの役割など考えている間はないはず・・・ 早く古い会館が市民に果たしてくれた役割を実現出来るよう市役所の皆様には頑張ってください。</p>	
2	<p>思い切って参加してよかったです。 市民ホールに対する考えが変りました。 色々の考えるべき要素があることを知りました。</p>	
3	<p>大石さんのお話は大変良かった。</p>	<p>B案…可動席をロビーに引き出すということだが、コストアップにつながるのではないか。また、ロビーのスペースが相当広くないと意味がないし、どのような催しができるのか不明。 C・D案…外観がお城とマッチするのだろうか？</p>
4		<p>(アコースティックな音響、見切れなしは当然。大中小ホールにきちんと使えることは、必須)無理に大ホール・小ホール両方共クオリティーを求めるのではなく、小ホールは大スタジオで良いと思う。当然音響は良くする(浮き床等)。 その分、市民のエリア・創造スタッフ室はきっちりと作る必要がある。 市民ホールなのだから。</p>
5	<p>トイレは大事だということが改めて理解できた(性的マイノリティのことなど)</p>	<p>市民ホールの運営や事業企画提案にぜひ関わりたい。</p>
6	<p>とても良かったです。 ただ、音声少し大きすぎたかな・・・。</p>	<p>この企画は素晴らしい！ 東北大学のコーディネーターの先生(お名前を忘れてごめんください)、ありがとうございました！！</p>
7	<p>LGBTについては考えてもいかなかった。 市民の役割の大切さを考えなければいけないと感じた。 使いやすい良い物ができればと思っています。 音についても良い物を追及してほしい。</p>	
8	<p>(基調講演について)大石支配人の講演は、実際の市民ホールのオペレーションに携わられての経験と日頃お考えの課題をもとにし、今回の小田原市民ホールの推進委員としての立場からの事業者選定に向けてのご自身のポイントをわかりやすく説明頂いたと思います。 その中で、小田原市民の芸術・舞台活動の場としてクオリティーの高いものを作ってもらふことと、ホール以外でのフリーな交流空間を充実させることの2点共を実現させることは非常に困難なこととおっしゃっていましたが、コストや要求水準を見ずえて最大公約数を目指して、事業者の方には是非すばらしいコンセプト、設計を検討されている所を選んでいただける様期待しています。</p>	
9	<p>大石さんのトークは、たいへん面白いものでした。明快であり、ロジカルで。 LGBTの話が出たのは、意外でしたが(失礼!)、今後、開かれた場所としての「市民ホール」を目指すなら当然ですね(LGBTQと言うべきでしょうか)。フリーWi-Fiも然り。 その「市民ホール」内部は「大ホール&小ホール」以外はどんなスペース、場所が考えられているのですか?(12月に発表される?) (トイレ以外に。カフェetc???)この「大ホール&小ホール」では、市民の団体(出演者)だけが使う訳ではないであろう。また、これ以外のスペースも然り(様々なアーティスト、パフォーマーetcが来ますよね?)。 「フリーな交流空間」なる考えを、どうとらえて進めるのか?大いに期待、注目します。</p>	<p>そもそも基本的に、アーティスト～パフォーマーは、与えられた状況(環境)～スペースの中で、活動するものである。「素晴らしい環境」があれば「素晴らしいパフォーマンス」が出来るという訳ではないであろう。 パフォーマーは、与えられた状況がどんなものであれ、やるものである(どこでも最大限なものを目指す!)。でしよ?</p>
10	<p>大石さんの言われていたように、市民の自主的な文化活動にとってフリーな空間は大変重要だと思います。私の住む街でもホールの計画がありますが、小田原市のように市民の文化団体はカヤの外です。文化団体の活動を反映しようとする市の姿勢を大変うらやましく思いました。</p>	
11	<p>マニアが喜ぶだけのホールではなく、市民にとって拡がりを持つてるホール、外来の方々にも気持ち良いホールとして欲しい。 ※小田原の発信地。ソフトの重要性を考えてゆきたい。</p>	<p>3業社の方が同席は、良かったと思います。</p>

番号	ご意見、ご感想	
	基調講演・文化団体による事業紹介について	その他
12	<p>大石さんのお話は今後の事業運営にダイレクトに役立つ内容であった。現役で最前線に立っている方の言葉ほど響くものはない。</p> <p>数々の場面で幾度となく「決断」をしてきたご経験がにじみでいた。</p> <p>印象に残ったのは「次世代の子供達のために」というキーワードが多い点だ。全く同意である。</p> <p>アリオスでは学校関係者と連携して多様な取り組みをされているようだ。実は私の出身である札幌も当時似たような状況であり、様々な行事を学校ではなくホールで実施した。</p> <p>大石さんがおっしゃるように強烈な記憶となっている。</p>	
13	<p>ホールが”誰のためのものか?”を第一に考えていくと、概ねのスペックが分かるような気がしました。</p>	
14	<p>【基調】 パワーポイントあるいは配布資料が全く無い点は、講演者が伝えようとする姿勢、努力が足りないと思います。事務局から講演前にきちんと要望しているべきです。市民ホールの立上げの御経験が多い方とは思いますが、何の資料も無いというのはあまりにも上から視線であり、今後市民ホールに関係される折にこのスタイルで関係される事には納得しかねると思います。文化活動の基本である「コミュニケーション」を大切にしておられない事の証しの様に思い、この方のお話の根幹を疑ってしまいます。この方の市民へのデビューのための機会として今回のシンポジウムを位置づけるならば、事務局として講演のレジュメを準備していただけなかった事は大きなマイナスだと思います。お話の内容は間違っていないとは拝察いたしますが、市民はホールの専門委員の方を信じて託さなければならないのですか。「コミュニケーション」への努力をされていない方に託して良いのかという不安を感じると、何故この方を選ばれたかという行政にも疑問を持ちかねません。行政のあり様に疑問を持たれる事態は、これからホールの完成まで、又その後の運営のためにも絶対避けなければならないと思います。お話の内容は貴重なものと思うだけに、何のレジュメも無く、パワーポイントも無く、一方的にお話をされる姿に、この方に託せるのかなど疑問を持たざるを得ないことが、大変残念に感ずる次第です。</p> <p>今後市民ホールに関する様々なイベントは、悔しいけれど過去の経過と切り離して考えるわけには行かないので、先生方の上から目線で話されるという印象を避ける事には、事務局として細心の注意を払うべき点だと思います。コミュニケーションの1st Stepは、同じ地面に足を置く事であり、仮にポーズとは言え、まずは同じ面に軸足を置いていくと聞く側に伝える事が出来なければ、ボタンのかけ違いが起り、小さなほころびが大きくなへだたりに拡がってしまう心配があります。今回のシンポジウムのあり方に学び、事務局としては御手数かと存じますが、今後この様な事を繰り返さない様にしていきたいと思ひます。</p> <p>事業者への話としても審査をする側が上から目線では審査は成功しない。同じ地面に立ち、コミュニケーションをはかる姿勢の無い審査には事業体側の苦勞・苦心は伝わらず、真の審査は出来ない。市民の要望と事業体の苦勞・苦心の両面をコミュニケーションしながらの審査で初めて真の結論に至ると思ひます。</p> <p>【文化団体の事業紹介】 この目的が事業者に対して事業を説明するのかと思っていたら、それぞれの活動エリアからホールへの要望を語る場であった。もしも要望を事業者に伝える場とするならば、やはりレジュメを準備する必要があったと思ひます。</p> <p>書くものに出来る事がどこまで出来るかは難しい面もあるかと思ひますが、それぞれの団体の中でどこまで論説したかにもよるが、少しでも記録したものとして残して行く必要があるかと思ひます。要望したから出来るという確認を言質とする場では無いので、レジュメを作る事は出来たと思ひます。</p> <p>小野田先生のお話でこれが1回目の提案の機会だとすればその位置づけをもっと明確にしておくべきだったと思ひます。</p>	<p>最後の小野田先生のパートナーというお話に事業体と市民を含めてパートナーととらえていただければと思ひます。又、パートナーとして苦勞を分かち合う中で妥協の産物にならない様に是非よろしくお願ひします。</p>